




論文等の発表状況調査

森林環境教育の場としての 利用状況調査

評価の観点

保護林等区分	観 点	調査の 選択
森林生態系保護地域	▶主にどのような学術研究に利用されているか。	 必須
生物群集保護林	▶同上	 選択
希少個体群保護林	▶同上	 選択
緑の回廊	▶森林環境教育の場として利用されているか。	—

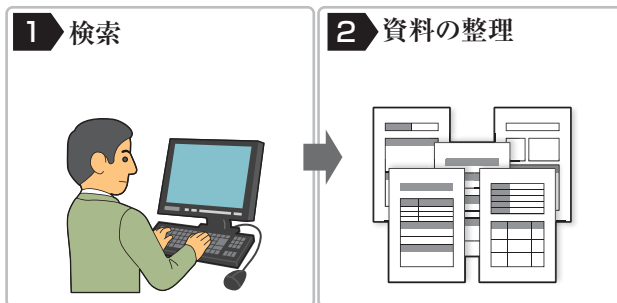
論文等の発表状況調査(資料調査)

森林環境教育の場としての利用状況調査(資料調査)

インターネット等を利用し、学術論文数や、森林環境教育のイベント情報等を整理する。



手順概要



方法と留意点

1 検索

①資料の検索

前回の保護林モニタリング調査以降に公表された対象保護林に関する主要な研究成果や緑の回廊内で行われた主要な森林環境教育のイベント等をインターネット等により検索します。

研究成果等の検索先の例

(機関)

国の研究機関、地元の大学や森林・環境に関係する学部等がある大学、都道府県の林業試験場等、森林管理局や森林管理署、民間の研究機関等

(キーワード)

保護林名(例:いろは森林生態系保護地域)、学会名(例:日本森林学会、日本生態学会、日本哺乳類学会、日本昆虫学会)等

森林環境教育等の検索先の例

(機関)

森林管理局や森林管理署、世界自然遺産地域のビジターセンター、地元のNPO、NGO等

(キーワード)

保護林名(例:いろは森林生態系保護地域)、森林環境教育、観察会、イベント、ツアー等

2 資料の整理

①資料調査整理表の作成

前項で収集した資料の一覧を様式に整理します。(様式33または様式34)

※なお、モニタリング結果について、結果概要、評価・課題等を分かりやすい形で整理するため、総括整理表を作成します。(様式37または様式38)

- A
- B
- C
- D
- E
- F
- G
- H
- I-1
- I-2
- I-3
- J
- K
- L
- M
- N**
- O
- P
- Q
- R

